

フレッシュな畜産の担い手が一堂に会しました！

今年度、畜産業の担い手として就農された5年目までの方（以下 セミナー生）を対象に農業セミナー（畜産コース）の開校式を6月6日（月）に開催しました。

新型コロナの感染防止対策を徹底するため、かながわ農業アカデミーの大きな講義室をお借りし、会場としました。当日は、雨脚が強い中、7名のフレッシュな畜産の担い手が会場に足を運んでくれました。参加者の内訳は、酪農5名、採卵鶏2名で、就農2年目の方が3名、3年目の方が2名、4年目の方が1名、5年目の方が1名の合計7名です。

セミナー生は、初めは緊張していましたが、普及指導課の普及指導員の自己紹介に引き続いて行ったセミナー生の自己紹介をするころには、緊張感も緩み始めました。

まずは、畜産に関する知識の習得のため、全ての畜種に共通の課題である「暑熱対策について」普及指導員からの講義を受講しました。就農2年目のセミナー生は、初めて聞く内容も多く、真剣にメモを取っていました（写真1）。

次に、畜産ブランド推進協議会幹事会ワーキンググループ（事務局：（一社）神奈川県畜産会）が、生産者の意気込みや安全でおいしい畜産物生産のための取り組みを広く知ってもらうために作成した、牛乳及び肉牛生産現場のPR動画をスクリーンに映したところ、真剣なまなざしで視聴していました。

続いて、各自の技術や知識の習得具合を可視化するために、「農業セミナー巡回 チェックシート」を作成しました。これは、飼養管理、経営技術、衛生管理、生活技術、ネットワークの各項目について、普及指導員の助言を受けながら、現時点での採点と1年後の目標数値を記録するものです（写真2・3）。

最後に、作成したチェックシートを用いて、セミナー生同士の意見交換を行いました。就農5年目のセミナー生は、「飼養管理」に自信あり！と答えており、就農2年目のセミナー生からの質問に対し、的確なアドバイスを送っていました。就農2年目のセミナー生も3年後には、このように堂々と後輩を指導できるよう技術的な部分だけではなく、仲間とのコミュニケーションやネットワークづくりを通じて、農業者としての意識の向上も促すよう我々もしっかりサポートしていかなければと気が引き締まる思いです。



写真1：暑熱対策の講義を熱心に聞くセミナー生の様子



写真2：チェックシートの項目を真剣にチェックするセミナー生



写真3：セミナー生の質問に答える普及指導員

備考

畜産ブランド推進協議会幹事会ワーキンググループは、県内の畜産物の知名度向上や販売流通拡大につながる企画・イベントを立案するために生産者と関係機関により立ち上げられ、畜産技術センター職員もグループメンバーとして参画しています。